

私は香川県善通寺市で生を受けた。父親が当時善通寺にある陸上自衛隊の隊員だったからだ。5歳まで狭い官舎で暮らしていたが、当時の記憶が断片的に残っている。その後、伊丹市にある陸上自衛隊の総監部に転勤になったのに伴い、小中高と伊丹市で過ごした。当時は塾や受験などの言葉も無くのどかな時間が流れていた。小学校が終われば家に帰らずに原っぱで草野球に興じていた。

私の父親はとても無口で親子で会話らしい会話をした記憶がない。日が暮れても遅くまで遊び呆けて帰るといつもアパートの玄関の扉を開けてくれなかった。開けた時には必ずビンタをされた。とにかく怖かった。それが辛くて小学校4年生の時にプチ家出をしたこともあったくらいだ。

そんな父親は48歳の時、うつ病で自死した。寒い夜に京都の警察署から連絡があり、母親と身元確認に向かうと警察官はこう言った。「良かったですね。明日、身



私と善通寺

長尾 和宏

元不明の遺体として焼き場に行くところでした。でも息子さんと会えて良かった」。この時のシヨックが医者になる原動力となった。母子家庭になったのでいったん就職したりして少し遠回りをしたが、心や生活も診られる医者になりたいと願いながら生きてきた。死に関する本をたくさん書き続け講演を続けているのは、父親の自死によるPTSDのせいだろう。50歳で生前葬をやり、60歳でまたやって怒られたけど本人はいたって大真面目である。生きているだけで丸儲けだと本気で思う。

今、自分が善通寺で生まれたことを両親に感謝している。というのも司馬遼太郎氏の「空海の風景」を何度も読み強い影響を受けたからだ。空海さんの本名は佐伯真魚で父親の名は善通である。早くお遍路さんに出かけお大師さんと一緒に四国を歩くのが、65歳の節目を前にした目下の夢である。

(長尾クリニック名譽院長)

随想